

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部1年 舟橋 知生

今回私は、ベトナムの独自の文化、伝統を地肌で感じ、単なる知識でしかなかったものを経験として身につけることで、現在行っているボランティア活動をより充実させる為、ならびに将来の日本の経済やベトナムの発展の為に、より有効に働けるような人に成長したいと思いこのプログラムに参加しました。恥ずかしながら、渡航前のベトナムに対するイメージはというと、熱心で真面目な人が多い。経済や工業は急速に発達しているとはいえインフラ整備や衛生管理は不十分であり、まだまだ貧しい国である。という、身勝手に漠然としたものでしかありませんでした。2週間のプログラム、ベトナム生活は私にとって新しい発見の連続であり、私の人生における大きな一歩となりました。ハノイ市街地に着くや否や、若者の多さと活気に圧倒され、あちこちでひっきりなしに高層ビルや鉄道の建設が行われている風景には驚きました。街はめまぐるしく動き、絶えず成長していました。市街地でひときわ目を引いたのは、LOTTE タワーと呼ばれる高層ビルでした。韓国企業 LOTTE が建てたショッピングモールです。ブランド店ばかりが入っていました。市場や露店が一般的であった生活のなかに突如として現れた現代的な商業施設は、若者に街のステータスの存在として捉えられていました。今ベトナムの若者の間では韓国のファッションや音楽が大変人気を集めているのでなおさらです。しかし、その状況に私は戸惑いを感じました。市場や露店で買い物には個人的な交渉ややりとりが行われ、独自のコミュニティが形成されています。外国によって、伝統的生活とはかけ離れた現代的商業施設が建てられる。そして若者はそちらへ憧れの目を向け流れてしまう。無理矢理現代的でリッチな生活をするのが幸せなのか？毎日の生活のなかで築かれたコミュニティのなかで身分相応に生きることの方が幸せと言えるのではないだろうか？幸せとは何なのだろう？と考えさせられました。本プログラムでは、ハノイ国家大学外国語大学、人文社会大学、社会科学院の三カ所で、日本語専攻のクラスへ参加したり、ベトナム文化や環境問題、家族やジェンダーに関する特別講義やベトナム語講座を受講したりした他、古都チャンアン（世界遺産）やドンラム村（伝統的建造物、景観の保護管理地区）での実地研修を行いました。実地研修の際も幸せとは何なのか、という疑問がついて回りました。ドンラム村へ行ったときの事です。この村は伝統的に飴とピーナッツのお菓子をつくっており、その伝統を保存すべくお菓子を作る数軒の家庭に JICA から援助がなされていました。援助のおかげで生計が立てられるようになったのは良いものの、かえって援助を受けていない家庭との経済的格差が生じてしまっていました。援助によってある伝統を守ることはとても大切なことですが、そのせいで、村民同士で厄介が生じ、村のコミュニティが変化してしまっただけで、村を保護したことにはならないはず。ボランティア活動に参加した際、単に援助をすれば相手に幸せを与えることができる、と思い込んでいた自分の浅はかさに気づきました。一口に援助といっても、本当の意味で援助をするためには、やはり相手側の生活、文化、思想、歴史的背景をきちんと理解しなければならないと思いました。相手にとっての幸せとは、こちらの側の基準で判断できるものではなく、相手の側の基準を満たすかどうかで決まるものなのだと思います。その基準を少しでも共有するためには先程も述べたように、生活習慣や文化、思想、歴史的背景を学ぶことが不可欠であると強く感じました。ベトナムの急速に変化する様子をこの目で見て、文化や伝統生活の保存、継承について今まで以上に関心を持ち、その方法を今後の大学生活でのひとつのテーマにしていこうと思っています。また、ベトナムの学生との交流を通して、ベトナム人の熱心さに感心し、素直さに心引かれました。日本語に自信が無いと言いながらも必死に伝えようとする積極的な姿勢は圧倒的に日本人に勝るものだと感じ、また、自分の恋愛についての話から将来についての話まで生き生きと語る姿は、そういうことを恥ずかしがったり誤魔化したりしてしまう日本人とは対照的で、新鮮に感じました。社交性を持ち、かつ意欲的に学問に励む、活気ある若者にあふれたベトナムの将来はわれわれの想像以上に高度で豊かなものになるだろうと思います。それとは対照的に、しばしば授業中に居眠りをしたり、スマホをいじったりしている日本の学生。日本の将来に対する不安が頭をよぎり、今までの自分の生活を反省しました。うかうかしては、日本はベトナムを初めとした世界各国に追い越され、衰退してしまう。上手な言葉では書けませんが、これまでよりもベトナムという国、そして世界が強くて大きいものに感じ、自分も日本の将来を担う一員である、という自覚がしっかりと心に刻まれました。日本は近隣諸国と領土問題を初めとして多くの複雑な問題を抱えています。正直な所、東南アジアからして日本のイメージは決していいとは言えないようです。先ほども述べましたが、韓国はオシャレで現代的な商業施設を建設して、着々と韓国のイメージを構築しています。今後の国際関係を考慮すれば、もっと積極的に日本の良いイメージを広めていく必要があると思います。ただ、日本人の奥ゆかしさは尊重すべき特徴であり、韓国のようなイメージ戦略はさけるべきだと思います。そこで、今回のような文化交流を目的としたプログラムが最適なのではないかと思いました。私自身、ベトナムについて考えが変わっただけでなく、日本の未来やその担い手としての自分自身を見直すチャンスとなりました。将来を担う世代同士が知り合いになり、意見を交換し、互いに世界が広がりました。そして、将来においても今回築いた関係を効果的に生かして、おたがいの社会に大いに貢献できると確信しています。貴重な経験をさせていただき、感謝いたします。